

桜川とその附近の史跡を探る (第六回)

永山 正

(1) 泉子育観音。

筑波町泉にある。真言宗豊山派に属する寺で慶竜寺というのが寺の名であるが、一般には泉観音様でとらわれている。寺伝によると本尊の子育出世正観世音菩薩は弘法大師が京都の東寺にいたとき小児の成長安全を祈念して自身で作ったものといわれている。その後小田原の観音寺の本尊だったが、徳川家康が深くこの本尊を信仰して天下を掌握したので出世の尊号を与えたといわれる。

元和元年(一六一五)慶竜上人は本尊の

「吾れこれより東方へ行き広く小児を病難より救わんとす速かに移すべし」

とのお告げにより、この観音像を笈に納め旅に出、筑波山のおふもとにさしかかったが桜川の洪水で渡ることができないうちに困っていたところ、一人の子供が小舟をこいで現われ上人を乗せて対岸に渡った。この時、本尊の姿が川上に見えただけで本尊が渡して下さったのだと、説経

して笈を背負って出発しようとしたところ、笈は重くて動かなかった。そこでここを霊地として本尊を安置し草庵を作った。その頃、泉村には悪疫流行して村民が非常に困っていたが、この観音のおかげで悪疫はたちどころに退散した。

このご利益を聞き参拝者が増加したので元和四年(一六一八)に堂宇を建立、慶竜上人の名により慶竜寺とした。二月十一日と八月十日が大縁日で毎月十八日が月縁日になっている。現在固定した信者一万人といわれ県内だけでなく千葉、東京、神奈川、栃木各都県に及んでいる。

(2) 普門寺

筑波町神郡にある真言宗豊山派の寺で創建は元亨年間(約六百五十年前)乗海大和尚の開山といわれ天台宗の寺であったが、小田氏の保護を受けるに及んで真言宗に改められ、いわゆる小田領四ヶ寺の一(外に大岩田の法泉寺、永国の大聖寺、加茂の南田寺)として多くの末寺を持つ寺格の高い寺であった。しかし、小田氏の滅亡と共にその保護がなくなり、明治初年の排仏毀釈で益々荒廃してしまった。本尊は阿彌陀如来で源信の作と称している。現在の本堂は寛政年間、客殿は明和年間、鐘樓は寛政年間の再建となっている。天狗党の乱のとき天狗の